

輝け！未来。



ANNUAL REPORT 2020

一般財団法人 三菱みらい育成財団について	P1
理事長メッセージ	P2
● Chapter 1 2020・2021年度の取り組み	
2020年度プログラム	P4
2021年度プログラム	P6
2019～2021年度の財団の活動	P8
助成先フォローアップ	P9
SPECIAL INTERVIEW みらい×育成 対談	
鈴木 寛氏(選考委員長)×平野信行(理事長)	P10
● Chapter 2 選考委員の講評	
各カテゴリーの選考委員からのコメント	P14
● Chapter 3 カテゴリー別 助成先一覧	
数字で見る 三菱みらい育成財団2020・2021年度の活動	P16
カテゴリー 1	P18
カテゴリー 2	P23
カテゴリー 3	P24
カテゴリー 4 / カテゴリー 5	P25
● Chapter 4 会計報告	
貸借対照表・正味財産増減計算書	P26
● Chapter 5 財団概要	
役員・評議員名簿	P28

一般財団法人 三菱みらい育成財団について

三菱グループは2020年に創業から150周年を迎えるに当たり、グループの主要企業26社で「三菱創業150周年記念事業委員会」(委員長：三菱重工業株式会社 取締役会長 宮永俊一)を組織しました。三菱グループの共通理念「三綱領」である、所期奉公、処事光明、立業貿易の下、弛まぬ社会貢献の決意を込め、さまざまな事業を実施しております。

こうした事業の第1弾として、「一般財団法人 三菱みらい育成財団」を2019年10月1日付けで設立しました。10年間にわたり、高校生を中心に大学生など次世代の人材育成に寄与する教育活動に助成していく方針で、総事業費約100億円を想定しております。1案件に最長3年間まで助成していく長期的な支援と、助成する教育プログラムの定着に向けたサポートをしていく点が特徴となっております。

三菱グループとして教育助成を目的とする財団を設立するのは今回が初めてとなります。これからもグループ一丸となって、社会貢献事業に取り組んでまいります。

1 なぜ、今「教育」なのか？

三菱グループがスタートした1870年、19世紀後半は、産業革命に端を発して世界覇権が大きく塗り替えられ、日本も開国・明治維新により、その真ただ中に飛び込んでいく激変の時代でした。それから150年、世界は再び歴史的な転換点に差し掛かり、激しい変化と予測の難しい中で、複雑な問題や課題を数多く抱えています。それらを解決していくためには、未来を切り拓く力を持った多くの人材が不可欠です。そうした次世代人材を生み出すための「教育」が必要だという、私たちの想いからスタートしています。

3 私たちの夢とゴール

私たちは、全国でのさまざまな優れた取り組みを発掘し、助成し、育て、横展開することで、グッド・プラクティスをつくり上げます。その先には、日本の教育の在り方やシステムをより良い方向に変えていく、という私たちの夢があり、ゴールがあります。

2 なぜ、「若者」がターゲットなのか？

私たちが着目したのは、10代後半の若者たちです。この年代は、人生で最も柔軟かつ多感であり、無限の可能性を秘めた未来の担い手たちであるからです。この世代の人たちに、一人ひとりの個性と自発的な想いを引き出し、何のために生きるのか、何のために学ぶのかを自ら問い、主体的に生きるべく、行動を起こすことを学んでほしいからです。

4 私たちのチャレンジ

この財団は、10年間という期限を自らに課しています。2030年に皆さんにどのような成果をお見せできるか、それは私たちに課せられた大きな責務であり、挑戦です。私たちのチャレンジにご期待いただき、さまざまな視点・立場から、ご意見・ご批判をお寄せください。





理事長メッセージ

三菱みらい育成財団は、三菱グループの創業150周年事業として2019年10月に設立しました。その2年以上前から三菱金曜会*1で議論を重ね、「三綱領」*2の一つ「所期奉公」の精神を踏まえ、社会貢献を第一に、「日本を支え発展させる次世代人材の育成」をテーマとする財団にしようとの結論に至りました。

岩崎彌太郎が起業した明治初期は、近代日本の礎が築かれた激動の時代でした。そして、今また100年に一度といわれる大きな変化が世界的スケールで起きています。その中で、地球温暖化、格差拡大に伴う社会の分断、米中对立といった深刻な問題が生じています。昨年来世界を覆うコロナ禍も例外ではありません。こうした複雑で困難な課題は従来の延長線上にあるような考え方では対処できず、解決には長い時間がかかることでしょう。私たちは、こうした難題に果敢に挑みより良い明日を切り拓くことができる人材を育成しなければなりません。

そこで、私どもの財団は、未来を創造する若者、高校生を中心とした15歳から20歳向けの教育プログラムに注力することとしました。日本ではいまだに、親子も有名大学に入り、大企業に職を得るといった画一的

な発想から抜け出せていません。その結果、高校は大学入試に必要な知識を与えるだけの予備校的存在になっているのではないかと。悩みながらも柔軟に物事を吸収し人格を形成していく10代後半の世代にそんな教育でよいはずがありません。一人ひとりの個性と可能性を引き出し、自ら問い、考え、行動できるような若者を育てるための教育を目指して、私たちは助成事業のプログラムを構想しました。

初年度には探究型学習を軸とする「心のエンジンを駆動させるプログラム」と突出した人材を発掘し育てる「先端・異能発掘・育成プログラム」を立ち上げましたが、事務局のスタッフが全国津々浦々の高校・NPO・大学などを訪れてフィールドワークを実施する中で、その効果や手応えを感じ始めています。

そして、初年度の成果を踏まえ、2021年度では三つのテーマに取り組んでいます。

一つ目は、「21世紀型のリベラルアーツ」として、主に大学最初の2年間の教育プログラムを想定しています。複雑に入り組んだ問題を解決するにはさまざまな分野にまたがる幅広い知見を基に総合的かつ創造的に考える力が必要です。そのために、少人数での対話

型教育、英語やITスキルを超えた本来の意味での教養に裏付けられた思考と行動の土台づくりを進める取り組みをサポートします。

二つ目は、高校教員向け教育プログラムです。高校の教員は大学で専門科目は学んでいますが、教えること自体を学んでいないことが多い。まして探究型学習となると未知の領域であり、教育のための体系立ったプログラムの開発が必要です。また、ビジネス界からグローバル化やデジタル化の動向を教員の皆さんに伝える場の提供も考えています。

三つ目は、助成対象の学校やNPO、教育事業者のネットワークを構築し、情報をお互いに自由に交換できるようなプラットフォームを構築していきます。それをベースにパネルディスカッションやシンポジウム、採択されたプログラムのコンテストや表彰を展開するとともに、世の中に対する私たちからの意見発信の場としても活用していきます。

教育現場では、正解がない問題に対してソリューションを見つけていく姿勢や力を養うにはどんなプログラムを組めばいいか、試行錯誤が続いています。そうした中で、私どもの財団が全国での優れたさまざまな取り組みを発

掘し、助成し、育て、グッド・プラクティスを横展開し広く根付かせていきたいと考えています。その先に、日本の教育の在り方、システムを変えていくというゴールを見据えています。教育を「受け身・画一的・一方的」なものから、「創造的・多様・インタラクティブ」に変えていく中で、既存の枠にはとらわれず、自分で考え行動し、変化をチャンスとして捉え、力強く未来を切り拓く人材が育っていくことを期待しています。



一般財団法人
三菱みらい育成財団 理事長
平野 信行

*1 三菱グループ各社の会長、社長を会員とする親睦会

*2 1920年の三菱第四代社長岩崎小彌太の訓諭を基に、1934年に旧三菱商事の行動指針として制定。その精神、価値観は今日に引き継がれ、三菱グループの企業活動の指針となっている

2021年度プログラム

カテゴリ1~3までは2020年度と同様。新たにカテゴリ4・5を新設し、教育プログラムの参加者の枠を広げた。

カテゴリ1

高等学校等が学校現場で実施する「心のエンジンを駆動させるプログラム」

プログラムの形態

- 総合的な探究の時間や教科等、教育課程の一環として、原則として、学年の生徒全員を対象として行うもの
内容が生徒の実態に応じて設定し、学習領域や教育手法は自由

助成対象者/プログラム参加者

高等学校等/高校生等(15~18歳)

カテゴリ3

卓越した能力を持つ人材を、早期に発掘・育成する教育プログラム「先端・異能発掘・育成プログラム」

プログラムイメージ

高校生対象の優れた才能を発掘・育成する領域に関する研究や事業の実績を有する、または、対象領域における発掘・育成プログラムの実績を有する大学・研究機関等が実施し、卓越した人材育成のために一定期間、継続的にプログラムを実施するもの。

助成対象者/プログラム参加者

大学、研究機関、教育事業者等/高校生等(15~18歳)

カテゴリ5

「主体的・協働的な学習を实践できる高校教員養成・指導者育成プログラム」

プログラムイメージ

大学、研究機関、NPO、教育事業者等が「主体的・協働的な学習を实践できる高校教員養成・指導者育成プログラム」の開発・実施・普及を目指すもの。タイプA・Bの二つを設定。

【タイプA】教員養成課程を有する大学が行うプログラム(開発および普及)

【タイプB】教育事業者等が行うプログラム(開発と実施)

助成対象者/プログラム参加者

教員養成課程を有する大学、研修機関、教育事業者等/高校教員・指導者

カテゴリ2

教育事業者等が行う、より先進的、特徴的、または効果的な「心のエンジンを駆動させるプログラム」

プログラムの形態

- 学校外または学校内で一定期間、継続的に行われるプログラム(プログラム形式)、または、広く参加者を募り、成果を競い合うプログラム(コンテスト形式)
学習領域や教育手法は自由

助成対象者/プログラム参加者

教育事業者・大学等/高校生等(15~18歳)

カテゴリ4

大学等で行う、「21世紀型 教養教育プログラム」

プログラムの形態

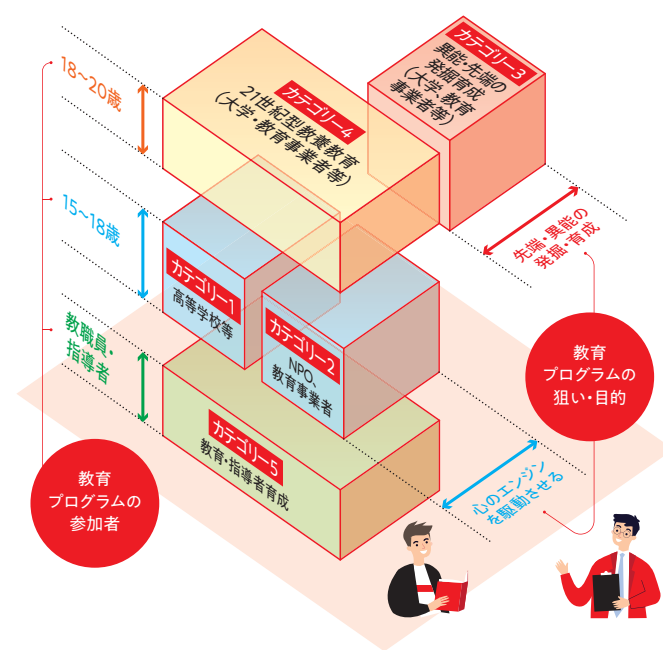
大学・研究機関、教育事業者等が「21世紀型 教養教育プログラム」を開発・実施するもの(一定期間、継続的なプログラム実施を想定)。

※「21世紀型教養教育」とは、私たちを取り巻くさまざまな環境が激しく変化の中で、現在・将来の課題解決に必要な基礎的素質と解決策を導き出すための世界観・価値軸を身に付けるもの

助成対象者/プログラム参加者

大学、教育事業者等/大学1・2年生相当(18~20歳)

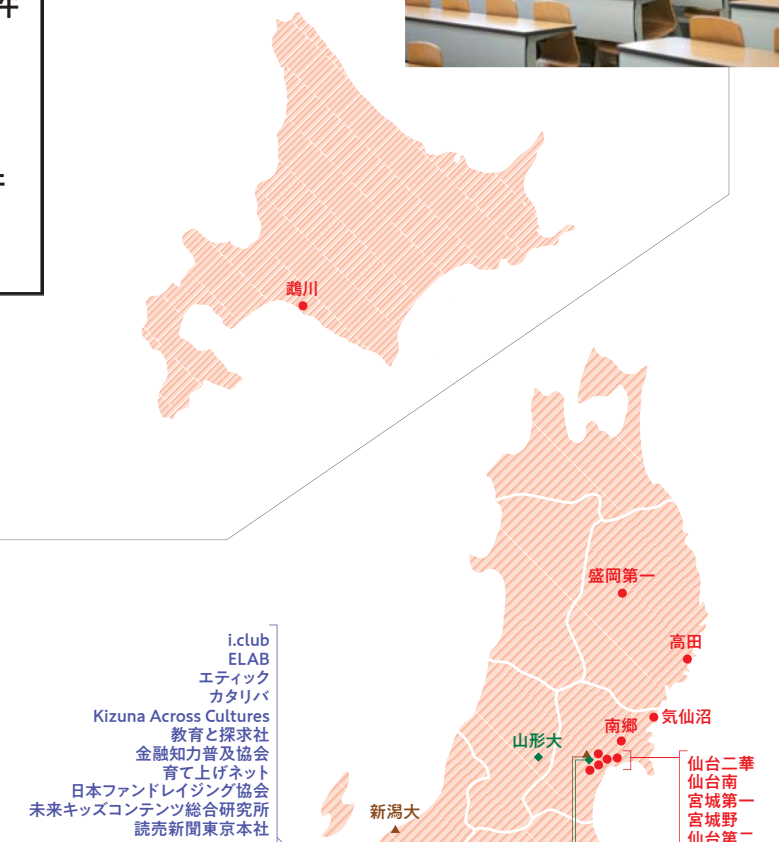
各プログラムの関連



応募状況

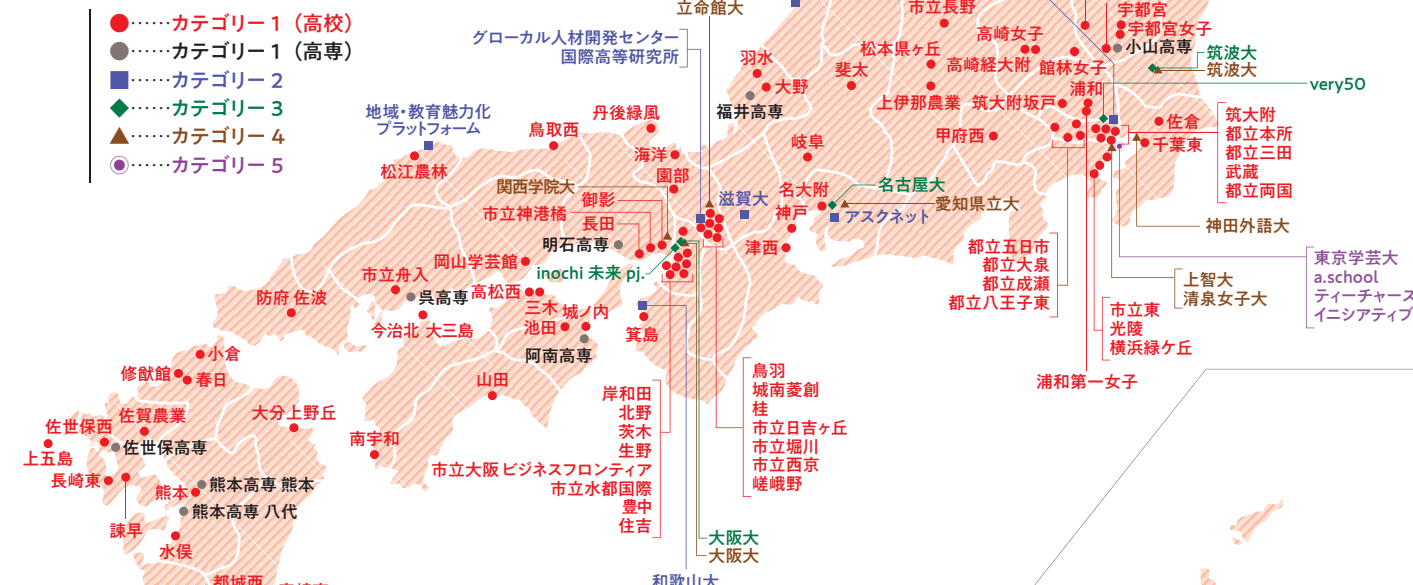
(新規) ※20年度助成案件は継続

Table with 2 columns: Category and Application/Admission counts. Category 1: 124 applications, 55 admissions. Category 2: 92 applications, 9 admissions. Category 3: 12 applications, 3 admissions. Category 4: 44 applications, 10 admissions. Category 5: 16 applications, 3 admissions.



2021年度 採択案件 所在地マップ

- Red circle: Category 1 (High School)
Grey circle: Category 1 (College)
Blue square: Category 2
Green diamond: Category 3
Yellow triangle: Category 4
Purple circle: Category 5



2019～2021年度の財団の活動

2019年度

- 11月 第1回理事会
- 12月 第1回評議員会
- 2月 第2回理事会
- 3月 第1回アドバイザーボード会議

2020年度

- 6月 第2回アドバイザーボード会議
- 第1回理事会
- 第1回評議員会
- 11月 第3回アドバイザーボード会議
- 三菱創業150周年記念式典
- 12月 第2回理事会
- 交流会
- 1月 交流会
- 2月 第3回理事会
- 第4回アドバイザーボード会議
- 3月 継続審査のためのZoom面接
- 第4回理事会

2021年度

- 6月 第5回アドバイザーボード会議
- 第1回理事会
- 第1回評議員会

理事会

2020年度ならびに2021年度の助成事業の進め方を中心に、募集要項や助成先の決定、各種委員の選定等について協議を行った。

評議員会

第1回目の会では、評議員の皆さまに助成事業の方向性についてのご意見を伺い、2・3回目は助成決定先の報告と今後の助成事業についてご意見を伺った。

アドバイザーボード会議

理事会の諮問機関として助成事業全般や2021年度の新規助成事業(カテゴリ4、5)についてメンバーからご意見を伺い、理事会に報告を行った。

三菱創業150周年記念式典

理事長がごあいさつと初年度助成事業の概要について報告、また助成先の代表者があいさつを行った。

交流会

「知り合うこと」と「ナレッジシェアをすること」を目的に、カテゴリごとの担当者交流会を、オンラインで開催。各回とも、議論や意見交換が大いに盛り上がった。さまざまなコメントや意見をまとめ、参加メンバーにフィードバックを行うとともに、今後も年数回の開催を計画している。

■ 2年間の財団の活動を振り返って

赤堀 侃司 理事
(東京工業大学 名誉教授)

理事会、それは、小説かドラマのシーンのようで、自分でも何か場違いの部屋に居るような感じがして、どこか気の利いた本質的なことを言わなければ、というプレッシャーも感じる。だが、議論が始まると、緊張は飛んでいって、内容の深さに引きずられ、そして面白くなるから不思議だ。それは、三菱の気風なのか、理事長と司会者の人柄なのか分からないが、本音を言うと、理事会は面白く楽しみなので、本財団は多分発展するだろう。

坂東 眞理子 理事
(昭和女子大学理事長・総長)

「みらいをそだてる!」という大きな夢を持った財団が2020年スタートし、具体的な助成が開始されました。高校生の「心のエンジンを駆動させるプログラム」「先端・異能発掘・育成プログラム」、大学生を対象とした「21世紀型教養教育プログラム」などに採択された活動がどのような成果を上げ、ここに参加した高校生や大学生がどのような大人に成長していくのか楽しみです。パワフルで未来を支える人が輩出されるのをワクワクしながら期待しています。

助成先フォローアップ

コロナ禍の中ではあったが、感染対策には十分配慮し、財団メンバーが順次個別に訪問し、プログラムの今後の取り進め等につき面談を実施した。また、年度末に行われる各団体の成果報告会等については可能な限り財団メンバーが視察、オンラインでの視聴を行った。

◇ カテゴリー1

新型コロナの影響で、研修旅行先の変更や外部専門家とのオンライン講座などに変更を余儀なくされたが、幸いGIGAスクール構想*の進展で各学校へのICT機器の導入が加速度的に図られたこともあり、年後半にはオンラインでの各種取り組みができたものと思われる。

探究学習プログラムについては、2022年から新学習指導要領に盛り込まれるため、2021年度より全校で導入されているが、「主体的対話的な学び」「社会に開かれた教育課程」の具体的な実現方法は、各校に委ねられており、その意味で今回のカテゴリー1の助成先はそれぞれの特色を生かした取り組みとなっていると考えられる。

一方で、「担当者交流会」では各教員から「教員の探究学習への取り組み姿勢や生徒のやる気にバラ

*2019年に文部科学省が打ち出した構想。「1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現する」としている。

◇ カテゴリー2

助成選考に際しては、1. 参加者の心のエンジンが駆動する内容であること、2. 学校ではできない先進的で独自性の高い取り組みであること、3. 日本社会や教育界に対して革新的なインパクトをもたらすこと、の3点を最も重視しました。2020・2021年度の採択結果を見ると、いずれのプログラムにも、随所に工夫が盛り込まれ、斬新かつ先進的な、それでいてしっかりと地に足がついた教育プログラムをたくさん採択できた

◇ カテゴリー3

先端・異能な高校生を発掘・育成するプログラムへの助成を目指すカテゴリー3では、広く公募した高校生を第1段階で育成し、その後選抜することにより、第2段階では大学研究室等に直接配属・第一線研究者からの指導を受けることでさらに育成されるプログラムをモデルとして、2020年度5団体、2021年度3団体の採択に至った。

選考過程では、「先端・異能」の定義やレベル、その育成手法など、さまざまな要素が、選考面接や選考小委員会で議論されてきた。中でも最重要視される

ツキがある」「教科学習と探究学習の連携不足」等の課題が出された。また、「開かれた教育課程」の実現には外部の社会人との連携が肝要であるが、学校により、濃淡があると思われる。OBネットワーク等を活用してTA(ティーチングアシスタント)やプログラムの審査委員として動員、また地域の役所・企業に声を掛けてそれぞれの課題について高校生に考えてもらうなど、プログラムに社会人と触れる機会をうまく取り込んでいるケースは生徒の学びにかなり効果的であると感じた。

また、2020年9月にはカテゴリー1対象校の生徒向けに三菱UFJリサーチ&コンサルティング社のアンケート調査を実施(生徒の探究性、主体性、協働性、社会性を測定)。来年も同時期に調査を行うことで生徒の変容を分析したいと考える。

と思います。

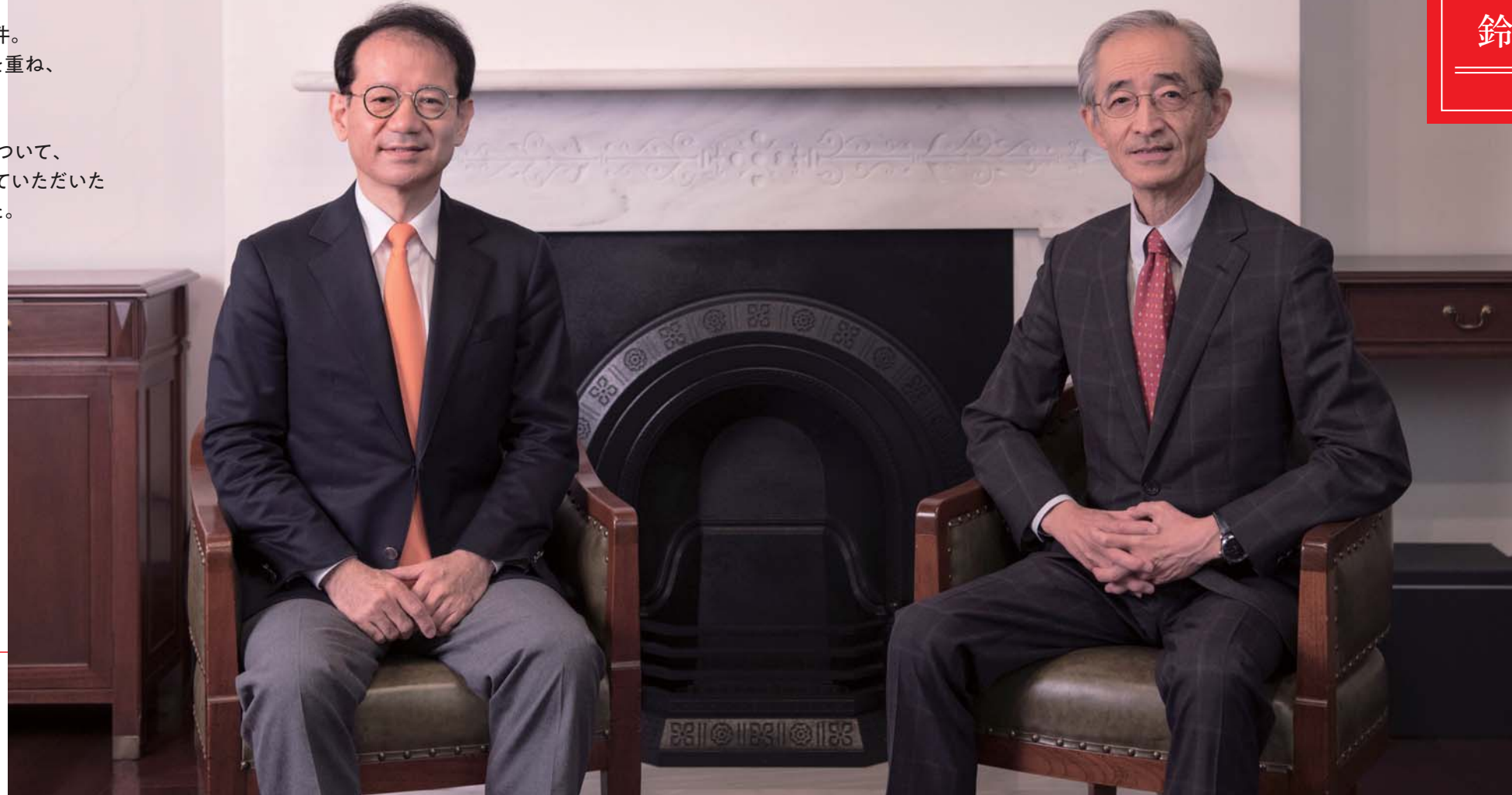
2020年度の助成先の皆さまとは、プログラムと一緒に盛り上げてさせていただきましたが、ご担当の皆さまの熱い思いを目の当たりにし、私自身も大変勇気づけられました。われわれには、日本の教育の在り方を変えていきたいという夢があります。夢に向かって皆さまと一緒に盛り上げていきたいと願っております。

点は、第2段階の育成に第一線の専門家・研究者が携わるかどうか、というものであった。

今後の課題としては、採択数減少傾向が挙げられる。この要因は、理工系研究室への参加型プログラム応募団体が一巡し、実際の応募団体数が減少したためである。2022年度以降に向けては、文理融合やソーシャルアントレプレナー等、対象領域と対象者層を広げることを含め、異能・先端領域の再整理・再設定を行う予定である。

22世紀をつくる 人材育成に向けた、 2年目の挑戦と進化

プロジェクトの応募数は2年間で539件。
書類選考と面談を経て、慎重に検討を重ね、
146件の助成先を決めてきました。
選考を振り返るとともに、
日本の教育と三菱グループの関わりについて、
2020・2021年度の選考委員長を務めていただいた
鈴木 寛氏と平野理事長が対談しました。



鈴木 寛氏

一般財団法人 三菱みらい育成財団
選考委員会 委員長
東京大学教授、慶應義塾大学教授、
元・文部科学副大臣、
前・文部科学大臣補佐官

平野信行

一般財団法人 三菱みらい育成財団
理事長
株式会社三菱UFJ銀行
特別顧問

財団の活動が、ジレンマを 抱えていた現場に光を当てる

平野 三菱グループは昨年150周年を迎えたわけですが、100周年の時には三菱財団を立ち上げて研究助成を行いました。150周年ではどうするかとなった時に、三菱金曜会の仲間と議論し、VUCA¹といわれる予測不可能で、不確実性が高く、不透明で正解のないような複雑な課題

を抱える時代においては、未来を切り拓く若者・次世代育成をしていくべきだという結論に至り、三菱みらい育成財団を設立しました。

1年目は大きく二つのテーマでプログラムを設定し、その一つが「心のエンジンを駆動させるプログラム」でした。これは、鈴木さんが2006年の教育基本法改正の起草に携わった当時から考えておられたことですね。

鈴木 そうですね。政府の立場で長年教育に関わってきましたが、実は政府が苦手な部分というのがあります。それが、まさにこの「心のエンジンの駆動」です。心のエンジンといわれても、客観的なメジャーで測れませんから、政府では扱うのが難しい。また、私が提唱していたアクティブ・ラーニングも、「遅々として」は進んでいましたが、大きな流れにはなっていなかった。こうした

課題を国や教育現場が抱えている時に、三菱グループが財団を立ち上げ、新プロジェクトがスタートしたわけです。

平野 今年度の成果を見ると、プログラムの採択件数／参加者数では、初年度の66件／2万6000人から今年度は80件／5万4000人まで増えました。また初年度は18の都道府県でしたが、2年間で38の都道府県に助成することになり、残る

空白県は9つとなりました。新たなカテゴリーを追加したこともありますが、結構大きなインパクトを生み出し得るところまで育ってきました。

ここまで広がってきた要因は幾つかありますが、一つには選考委員の皆さまの情熱ですね。オブザーバーとして何度か立ち会いましたが、応募してくる現場の先生方の情熱も、選考委員の皆さまの情熱もすごい。

非常に厳しい指摘もされていましたが、これは叱咤激励の裏返しですね。

また教育現場ではこのようなプログラムが渴望されていて、ニーズにピッタリ合致したことが大きかったんじゃないかと思います。われわれの狙いは間違っていなかったと。

鈴木 その通りだと思います。客観性や効率性、中立性等を重視しなければならぬ学校教育の制約の中で、教育者たちはさまざまなジレン

マを抱えており、そこに財団が光を当ててくれて、教育現場が活気づいています。事務局の方が現場に来て、自分たちがやろうとしていたこと、あるいはこれからやりたいことをめぐって対話し、理解し、応援し、共感してくれたおかげで、内に秘めた思いを開花させることができ、理想と考える教育を思い切りできると。頑張れというエールを送っていただいたという意味で、感謝です。若者の心のエンジンだけでなく、それ以上に指導者たちの心のエンジンを駆動していただき、本当にありがたく思っています。

2年目で進んだ 多様化

平野 2年目は地域的な多様化、プログラムの中身の多様化が進みましたね。プログラム内容は地域密着型からグローバルに関わるものまでさまざまです。中には、若者の孤立予防を目的とした教育を「心のエンジンを駆動させる」プログラムとして応募してきたものもあり、私は正直こうしたテーマを全く予期していませんでした。それだけテーマが広がりを見せているということで、とても良いことだと思います。

課題はカテゴリ3で、応募数が若干減りました。ビジネスの世界ではどうしてもサイエンス重視となるため、サイエンス分野のさらなる強化、特にサイエンスを専攻する女性への支援も考えています。

もう一つわれわれが目しているのが、STEAM教育です。これまではSTEM²教育という言葉が一般的

若者の心のエンジンだけでなく、それ以上に指導者たちの心のエンジンを駆動していただいたと思います

に使われてきましたが、最近では「Art」のAを取り入れたSTEAM教育の必要性が高まっています。このコンセプトをいち早く打ち出したのも鈴木さんですが、われわれも対象とする分野をさらに広げていくことを検討しています。

鈴木 STEAMという言葉は初めて使ったのは、私がG7教育大臣会合の議長代行をさせていただいた時ですね。私は以前から「判断」と「決断」

という言葉を使い分けています。「判断」は、必要な情報を集め、セオリーとフレームワークに基づいていればできる、つまりAIにも可能です。一方、「決断」は情報が不完全な状態、またいろいろな制約がある中でもものを決めなければなりません。これは人間にしかできないことです。論理は当然のこと、アートに関わる感性、歴史、教養など、あらゆる力を幅広く磨き、「悔いの少ない」決断ができるような総合力を、次の世代には身に付けてもらいたいと思っています。現場で頑張っている教師や学生たちの後押しになるよう、STEAM×イノベーションの分野を財団にさらに深掘りしていただければ、大きな流れになってくるのではないかと期待しています。

三菱グループのDNAに根差した 「協創」プロジェクト

鈴木 われわれが応援している15～20歳の生徒・学生たちは2100

年まで生きる、22世紀をつくる世代です。つまり、新たな人類史や世界史をつくるエポックメーカーとなる人材を育成しているわけです。

ここで改めてなぜ私たちに学びが必要かという根本的なことを振り返ってみると、未知なるものや未曾有の事態に遭遇したときに冷静に対処するためだと思うんです。正体不明のXの正体を明かすべく、己の知識や経験をもって、あらゆる角度から向き合っていく。150年前はこの未知なるXばかりがあって、150年の歴史がある三菱グループはそこに果敢に対峙した。新しい時代を切り拓いてきたというその文化遺伝子が、現場で頑張っている指導者たち、その先にいる若者たちへと、今また日本中で広がっていけば面白くなると思います。

平野 確かに三菱グループの創始者である岩崎彌太郎はチャレンジャーであり、明治という危機の時代にあって、それを機会として捉えた人

生徒たちも先生たちも変わる、そして私たちも変わらなければという潜在的な自覚があったのかもしれない

です。それから数十年たって、「三綱領」(三菱グループの企業活動の指針)ができました。その一つ「所期奉公」の「公」は、当時においては国を意識していましたが、今日的な視点でより広く捉えれば、パブリック、コモンズと言い換えてもいいかもしれません。そして「立業貿易」とグローバルの視点も併せ持って、それが戦後大きく開花していきました。

三菱グループは、日本の近代化を担ってきたという自負がある一方で、これまでとは同じではいけない、企業活動の在り方自体を変えていかなければという、非常に強い危機感も持っています。

世界のビジネスの流れを見ると、株主重視だった傾向から、お客さまや社員、社会、そして地球環境に貢献するという、ステークホルダーキャピタリズムまたはサステナブルキャピタリズムへとシフトしていています。今回の採択案件にも、さまざまな社会課題、また地球環境をテーマにしたものが入っています。こうした大きな時代の変化の中では、求められる人間像も変わり、生徒たちも先生たちも変わる、そして私たち三菱グループも変わらなければならないという潜在的な自覚があったのかもしれない。

22世紀を担う人材を創るこのプロジェクトは、教育現場の皆さんと三菱グループが互いの力を活かし合う「協創」こそが非常に大切です。その考えの下で、未来を切り拓く人材育成に力を合わせていければと願っています。



SPECIAL INTERVIEW

みらい×育成 対談

選考委員長 鈴木 寛氏 × 理事長 平野 信行

各カテゴリーの選考委員からのコメント

◆ カテゴリー1 (6名)

選考委員 01

選考を通して、高校生が心のエンジンを駆動するには何が大切かを考えた。一つは出会い。本物との出会い。人生を決定付ける意味ある他者との出会い。もう一つは主体性。自分で考え自分で動き出す。出会いと主体性を促すための仕掛けは、地域探究や課題研究などさまざまである。高校生の心が動き出す仕掛けを「現場」が必死に考える。「財団」がそれを後ろ盾する。こうしたシステムがうまく構築できるよう、選考を心掛けたところである。

選考委員 03

2年間、高等学校の選考に関わった。今、高等学校は、各学校の特色化・魅力化に全力を注ぎ、「選ばれる学校創り」を実践中だ。本財団のプログラムに応募する学校は、生徒たちが生き生きと活動し変容をするさまを、意欲ある教職員集団が支えることが期待できる学校ばかりだ。現場の情熱を直に体感できる選考に従事することは、私には大きな喜びだ。そして、未来を担う人材創りに関与できる本プログラムの意義はとて大きい。

選考委員 05

財団の活動も2年目になり、高校関係者が大きな関心を寄せていることが申請書や面接からひしひしと感じられた。その証拠に、応募校の所在地も多岐にわたり申請校数も増加している。それに応じて申請の質も向上の一途をたどっていることから、選考には相当悩まされた。それだけに採択校は自信を持ってプログラムの実施に臨んでいただきたいし、選に漏れた学校も優れた教育活動を実施できる可能性を秘めていることを認識していただきたい。

選考委員 02

全国的に有名な高校から初めて名前を聞く地方の小規模な高校まで、昨年以上にバラエティーに富んだ学校から応募があり、多くの学校でそれぞれの地域や学校の特色を生かした「生徒たちの心のエンジンを駆動させる」取り組みが進められようとしていることに大変心強く思いました。面接を通して本財団の助成が、経済的な理由から取り組みを進めたくても進められない学校にとって貴重なものであることを改めて実感しました。

選考委員 04

面接の中で、こちらも相手も考えが深まるのを感じることがあった。選考委員としては頼りないし、申請する側にはもっとしっかり検討をということになるだろうが、こういうことが大事なのだろう。どうすれば高校生の心のエンジンを駆動するかという問いに向き合う緊張感と楽しさ。決まった答えがない。そうなると、幾つものモノサシを試す必要があるし、新しいものも必要になる。良い仕事に関わらせてもらっていることに感謝している。

選考委員 06

本年の選考では、経費見積もりをどう評価するかに悩まされた。昨年までは、大半の学校で、プログラムの実施過程で必要となる諸費用を積み上げる形で経費計画が出されていたが、今年は講師費用や外注費用、大規模装置の購入費用等、特定のものへの支出が経費の大半を占める学校が出てきた。学校の実績やプログラムの中身としては評価できるだけに、経費案を見るとき、どう評価するかかなり悩ましい判断を迫られることが多かった。

◆ カテゴリー2 (3名)

選考委員 07

コロナが猛威を振るう中、教育現場においても本当につらく厳しい一年となったことと存じます。そんな中でも皆さんギリギリまでの創意工夫、試行錯誤を重ねておられ、選考をしながらも驚きと発見の連続でした。「制約条件が厳しいほど、創造性が高まる」ということを見せてくださった皆さまに、心からの敬意と感謝の気持ちをお伝えさせていただきます。

◆ カテゴリー3 (3名)

選考委員 09

選考や会議などで、いつも思うのが、助成事業の先見の明の素晴らしさです。心のエンジンの駆動、先端・異能の発掘、21世紀型教養教育の推進、時代を担う教員養成など、どれを取り上げても、今日に求められるキーワードばかりです。日本は、こうして時代を切り抜けてきたのか、と思えば、三菱の名前にふさしい事業で、私もこの助成事業に関われることを誇りに思います。オンラインであっても選考するときの楽しさを、思い出します。

選考委員 10

コロナ禍のせいか、なんともうつうつとした昨今のご時世…救世主とは言わないうまでも、“希望の光”の出現が待たれるところ。こんな世相をくしくも予知していたかのような“異能発掘育成”のプロジェクト…。それをうたい上げた財団の先見の明に、今もって感服の念。選考に当たっては、ことさら“希望の光”をイメージして、あとは虚心坦懐に臨んできた。乞い願わくは、応募、選考、助成、実行に携わる皆々が心を一にし、ゴールを目指し、真っすぐに取り組む…そんな感じでしょうか!?

◆ カテゴリー4 (2名)

選考委員 12

大学の教養教育に特化したプログラムに対する支援が新設されるという話に心が躍った。それは、2000年ごろより西欧もアジアも、今後の社会を担う幅広い視野を持つリーダーの育成を目的として教養教育の復権が進み、さまざまな取り組みが模索されているからである。選考に参加して、大学が多様な努力を重ねておられることの勉強の機会を頂いた。財団の慧眼に感謝するとともに、これが日本の大学の一つの起爆剤とならんことを切に願う。

選考委員 08

3年間の助成期間という機会を最大限活かして、団体や事業としての新たなステージへの進化をさせていこうという取り組みや、今までにない新たな連携を生み出すチャレンジを始めようという意欲のある申請が多くあったことが印象的でした。全国から集まった企画を拝見していると、子どもたちの心を駆動させるために、多くのNPOや企業の人たちが情熱を持って、真剣にチャレンジしていることに大変勇気づけられました。

選考委員 11

カテゴリー3は、将来、社会が求める卓越した能力を持つ人材の発掘・育成を目指す。対象領域は先端科学研究開発からグローバル・ビジネス、起業家・アントレプレナー、芸術など広いが、オーソドックスな応募が多かった。「失敗は勲章」と捉え、異能・異才を温かく育てる社会が不可欠であるが、簡単には変わりそうもない。当財団の試みが広く知られ、優れた取り組みが支援を受け、社会に影響を与えてほしいと願っている。

選考委員 13

教養教育に光を当てる新カテゴリーの意義は大きいと思います。今回の選考では、教育を行う人に重点を置くか、運営する組織に重点を置くかで意見が分かれました。アイデアは素晴らしいし、現場は一生懸命だけれども、実施体制に難のある応募は、今回結果的には採択に至りませんでした。こうした方々の取り組みがより洗練されたプログラムに発展できるよう励ますスキームも、今後の課題だと思いました。実りある議論に感謝します。

※「カテゴリー5」については、「カテゴリー1」の選考委員2名が選考。

数字で見る

三菱みらい育成財団 2020・2021年度の活動
Mitsubishi Memorial Foundation for Educational Excellence at a Glance

2020年で **150** 周年

となる三菱グループが立ち上げた三菱みらい育成財団の

活動期間は、

総事業費は、

10 年

100 億円

助成していく。

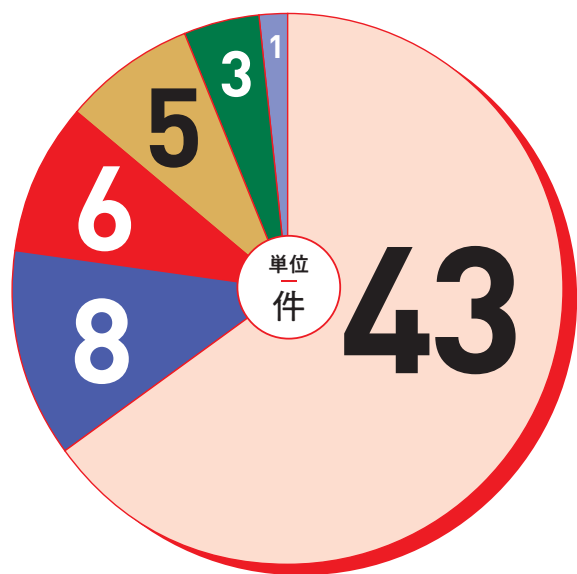
2020年度の応募総数

カテゴリー1 採択 **117** 件 **51** 件

カテゴリー2 採択 **114** 件 **10** 件

カテゴリー3 採択 **20** 件 **5** 件

2020年度 採択先の内訳



- 高等学校
- 大学
- 高等専門学校
- 一般社団法人
- NPO法人
- 企業

2021年度の応募総数

カテゴリー1 採択 **124** 件 **55** 件

カテゴリー2 採択 **92** 件 **9** 件

カテゴリー3 採択 **12** 件 **3** 件

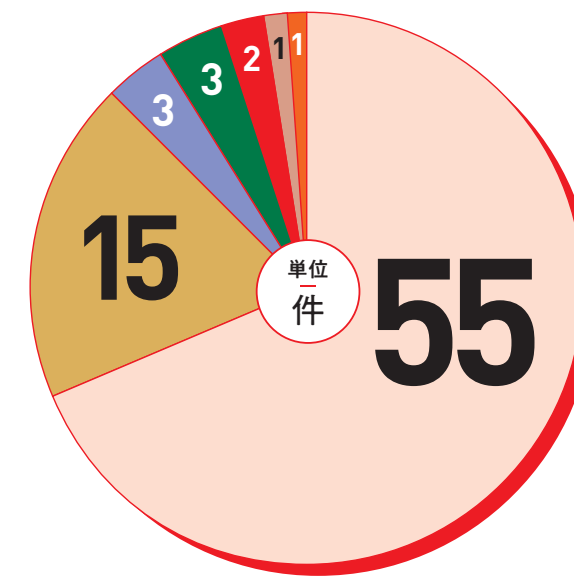
カテゴリー4 採択 **44** 件 **10** 件

カテゴリー5 採択 **16** 件 **3** 件

2020・2021年度合わせたカテゴリー1の助成先



2021年度 採択先の内訳



- 高等学校
- 大学
- 企業
- 一般社団法人
- NPO法人
- 一般財団法人
- 公益財団法人

2020・2021年度合わせた対象者数



約 **80,000** 人

無限の可能性をもって
未来を切り拓く若い世代を
支援していきます。

◇ カテゴリー1

※都道府県順

年度	組織名	所在地	教育プログラム名	対象者数	助成額
2021	北海道鶴川高等学校	北海道勇払郡	むかわ学プロジェクト	134名	200万円
2021	岩手県立高田高等学校	岩手県陸前高田市	T×ACTION	234名	200万円
2021	岩手県立盛岡第一高等学校	岩手県盛岡市	「M探」Plus Science and English	840名	200万円
2020	宮城県仙台二華高等学校	宮城県仙台市	北上川/東北地方、メコン川/東南アジアをフィールドとした世界の水問題解決のための取り組み	480名	200万円
2020	宮城県仙台南高等学校	宮城県仙台市	公孫樹プログラム	560名	85万円
2020	宮城県宮城第一高等学校	宮城県仙台市	オール宮城で育てる未来を拓くグローバル人材の育成	560名	200万円
2021	宮城県宮城野高等学校	宮城県仙台市	自他の「しあわせ」のための「未来デザイン力」育成プログラム	560名	200万円
2021	宮城県仙台第二高等学校	宮城県仙台市	課題研究II ～仙台二高 北陵グローバルゼミ～	320名	100万円
2021	宮城県南郷高等学校	宮城県遠田郡	ボランティア活動を通して地域に貢献することで、楽しみながら学び、地域を愛し続ける生徒を育成するプログラム	75名	100万円
2021	宮城県気仙沼高等学校	宮城県気仙沼市	海を素材とするグローバルリテラシー育成～世界を舞台に活躍するスケールの大きな人材を目指して～	700名	197.7万円
2020	福島県立葵高等学校	福島県会津若松市	生徒の主体的に生きる力の育成～課題探究活動「葵ゼミ」とおとして～	390名	200万円
2021	福島県立磐城高等学校	福島県いわき市	地域トップリーダー育成のための探究プログラム	560名	200万円
2020	国立高等専門学校機構 小山工業高等専門学校	栃木県小山市	SDGsにアプローチする学年進行探求型STEAM教育を基盤とした未来実装型スーパーリカレント教育プログラム	200名	200万円
2020	栃木県立宇都宮高等学校	栃木県宇都宮市	課題研究I・課題研究II	560名	96万円
2021	栃木県立佐野高等学校	栃木県佐野市	Sanoグローバル構想 田中正造型グローバルリーダーの育成	480名	198.5万円
2021	栃木県立足利清風高等学校	栃木県足利市	「学び楽しむ」～学びの主役は君たちだ～	80名	100万円
2021	栃木県立宇都宮女子高等学校	栃木県宇都宮市	キャリア形成に資する探究活動	560名	200万円
2020	群馬県立館林女子高等学校	群馬県館林市	館女の女性学～女性の生き方探究～	400名	200万円
2020	高崎市立高崎経済大学 附属高等学校	群馬県高崎市	TSUBASAプロジェクト～高崎市と世界をつなぎ、地域に貢献できる人材の育成～	840名	200万円
2020	群馬県立高崎女子高等学校	群馬県高崎市	「総合的な探究の時間」における、自己を見つめ、主体的・自律的に取り組む課題研究	560名	200万円
2020	筑波大学附属坂戸高等学校	埼玉県坂戸市	高校生Social Change Student養成プログラム	100名	100.5万円

※都道府県順

年度	組織名	所在地	教育プログラム名	対象者数	助成額
2020	埼玉県立浦和高等学校	埼玉県さいたま市	浦和高校「総合的な探究の時間」	720名	200万円
2021	埼玉県立浦和第一女子高等学校	埼玉県さいたま市	未来のための「女性学」探究プロジェクト～To the next stage of our project based learning～	1,078名	200万円
2020	東京都立五日市高等学校	東京都あきる野市	課題解決能力の高い地域人を育成する「五日市メソッド」	160名	100万円
2020	東京都立大泉高等学校	東京都練馬区	「探究と創造(Quest&Creativity)」	400名	200万円
2020	筑波大学附属高等学校	東京都文京区	筑波スタディ～「伝統」と「連携」がひらく、社会へむかう探究の扉～	480名	200万円
2020	東京都立成瀬高等学校	東京都町田市	成瀬BB!プロジェクト	560名	200万円
2020	東京都立八王子東高等学校	東京都八王子市	世界と地域の協働により課題解決に挑む力の育成	640名	200万円
2020	東京都立本所高等学校	東京都墨田区	「本所の探究～2030年を見据えた挑戦～」SDGsを視野に入れ、自分の興味関心のあることを探究していくプロセスを通して、自ら考え行動し、自己の生き方を見つめ、より良く社会を生き抜く力を育てる探究学習	480名	200万円
2020	東京都立三田高等学校	東京都港区	「知的探究イノベーター推進事業」	560名	196万円
2020	私立武蔵高等学校中学校	東京都練馬区	総合的な探究の時間を利用した「自調自考のエンジン」を身に付けさせる多様なコース制による課題解決型学習	170名	150万円
2020	東京都立両国高等学校	東京都墨田区	Bridge～世界に橋を架ける～	400名	200万円
2021	千葉県立千葉東高等学校	千葉県千葉市	「東雲(しのめ)探Qプラン」による、幅広い視野をもつ自立的探究者の育成	320名	130万円
2021	千葉県立佐倉高等学校	千葉県佐倉市	未来の種を蒔く SAKURA PROJECT	840名	200万円
2020	神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校	神奈川県横浜市	MIDORI RESEARCH PROJECT	840名	196万円
2020	神奈川県立光陵高等学校	神奈川県横浜市	「心やさしき社会のリーダー」へ、光陵の伝統とSDGsのミックスアップ!	640名	200万円
2021	横浜市立東高等学校	神奈川県横浜市	SDGs未来都市横浜発 グローカルリーダーの育成～課題発見力・課題解決力を身につけて未来を切り拓く～	840名	200万円
2021	富山県立入善高等学校	富山県下新川郡	NTS(入善ツーリズムスタディ)～参与観察的フィールドワークによる地域とともに考えるコミュニティ創造者の育成～	36名	100万円
2021	石川県立輪島高等学校	石川県輪島市	「WJIL活」半島の最先端から世界の最先端へ ①自律的・主体的に問題解決できる力 ②創造に対し挑戦し、未来を切り拓く力を身に付けるプログラム	221名	100万円
2020	国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校	福井県鯖江市	創造プロジェクト教育による研究者・エンジニアへのステップフォワード	200名	200万円
2021	福井県立大野高等学校	福井県大野市	持続可能なコミュニティ「D-Kompas」の構築～オール大野による学校サポート体制を確立し、生徒の主体的学びを支援～	390名	200万円
2021	福井県立羽水高等学校	福井県福井市	地域に提案!	884名	200万円

※都道府県順

年度	組織名	所在地	教育プログラム名	対象者数	助成額
2021	山梨県立甲府西高等学校	山梨県甲府市	IBの手法を基礎とした、「総合的な探究の時間」における課題研究論文の作成	640名	200万円
2020	長野県立長野高等学校	長野県長野市	Willから始まる探究の土壌づくり ～長野県立長野高校の実践から広がる文化の醸成～	320名	200万円
2020	長野県上伊那農業高等学校	長野県上伊那郡	チャレンジ「MIRAINAカンパニー」プロジェクト	40名	77万円
2021	長野県松本県ヶ丘高等学校	長野県松本市	信州学からグローバル課題へ・探究を実践し続ける縣人者を育てる Kenryo Researchers Program	967名	199.4万円
2021	岐阜県立斐太高等学校	岐阜県高山市	斐高生が結ぶ地域と世界! ～地域で考え世界とつながる、地域振興プロジェクト!～	480名	100万円
2021	岐阜県立岐阜高等学校	岐阜県岐阜市	百折不撓・自強不息の精神で目指せ! グローバルリーダー ～岐阜県立岐阜高等学校により「清流の国ぎふ」から世界への飛翔する若者の育成～	720名	200万円
2020	愛知県立大府特別支援学校 [※]	愛知県大府市	同時双方向通信を用いた高校生支援 ～テレワークによる進路開拓・就労への挑戦、病気療養生徒の単位取得のための支援～	30名	100万円
2020	名古屋大学教育学部 附属中・高等学校	愛知県名古屋市	「ハイブリッド」文理融合教育プログラム ～知りたい・やりたい・成し遂げたい～	360名	200万円
2021	三重県立神戸高等学校	三重県鈴鹿市	地域の未来を考え提案する探究活動「鈴鹿学」	520名	198万円
2021	三重県立津西高等学校	三重県津市	夢を叶え、未来を紡ぐ「津西! 探究Education」 ～学校全体で取り組む「探究学習」～	640名	200万円
2020	京都府立鳥羽高等学校	京都府京都市	「なぜ?」を問い、社会と関わる、 社会に飛び出すグローバル・リーダーの育成	600名	172万円
2020	京都府立海洋高等学校	京都府宮津市	未利用資源を活用した「高校生レストラン」と 「高校生子ども食堂」の運営	30名	100万円
2020	京都府立城南菱創高等学校	京都府宇治市	菱創プロジェクト	240名	200万円
2020	京都府立桂高等学校	京都府京都市	段階的・総合的なKRPメソッドによる生涯にわたる探究者の育成	360名	100万円
2020	京都府立園部高等学校	京都府南丹市	SONOBE Global Research Program	280名	200万円
2020	京都府立丹後緑風高等学校 久美浜学舎	京都府京丹後市	「丹後知新」 ～“今”、紡ぐ未来～	40名	100万円
2020	京都市立日吉ヶ丘高等学校	京都府京都市	「世界をつなぐ越境者」育成プログラム ～生徒も先生も世界に踏み出そう～	480名	200万円
2021	京都市立堀川高等学校	京都府京都市	「よって、」と書けばいいわけじゃない。 ～論理的言語能力と将来の学びに向かう心に火をつける～	480名	150万円
2021	京都市立西京高等学校	京都府京都市	京都発! 未来の教室がある学校をめざして ―グローバルリーダーシップ の育成をめざしフィールドワークを軸とした探究プログラムの構築―	560名	200万円
2021	京都府立嵯峨野高等学校	京都府京都市	コロナ禍でも可能な国際交流 ～国際交流を通しての探究活動の活性化～	720名	180万円
2020	大阪府立岸和田高等学校	大阪府岸和田市	知の三現改革プログラム	640名	200万円
2020	大阪府立北野高等学校	大阪府大阪市	六稜 Task Project (学術研究の基礎としての課題研究)	260名	200万円

※都道府県順

年度	組織名	所在地	教育プログラム名	対象者数	助成額
2020	大阪府立茨木高等学校	大阪府茨木市	IBARAMA ～「自主自律の精神」に基づき、 「高い志」と「枠を超える知性」を育む～	680名	200万円
2020	大阪府立生野高等学校	大阪府松原市	「ハングリーに学ぶ生徒」を育てるための、文系探究学習の指導と評価	520名	200万円
2020	大阪市立大阪ビジネス フロンティア高等学校	大阪府大阪市	小高連携プロジェクト ～子どもお店バトル～ カンボジアの子どもたちの夢を叶える一歩～	40名	100万円
2021	大阪市立水都国際中学校・ 高等学校	大阪府大阪市	世界も地域も私も変わる“Suito Action Project for SDGs”	480名	200万円
2021	大阪府立豊中高等学校	大阪府豊中市	豊高型課題研究、“響学”プログラム ～「ホンモノ」にふれ、「ココロ」を響かせ、真に学ぶ～	511名	126.1万円
2021	大阪府立住吉高等学校	大阪府大阪市	「SUKI」を極めるプロジェクト SUKIPRO～あなたの「SUKI」が世界を変える	560名	200万円
2020	国立高等専門学校機構 明石工業高等専門学校	兵庫県明石市	3学年4学科横断型 工学実装教育プログラム	520名	200万円
2021	兵庫県立御影高等学校	兵庫県神戸市	伸ばせ! 「みかげ力」～外部連携を活かした 生涯学び続ける生徒を育てる探究活動～	640名	200万円
2021	兵庫県立長田高等学校	兵庫県神戸市	「一芸一才」を活かして「安全な未来都市づくり」を担う 「アーバンクリエイター」育成方策の開発	640名	200万円
2021	神戸市立神港橋高等学校	兵庫県神戸市	多層的探究過程と学びの土壌で実現する地域協働探究 ～正解(こたえ)のない課題(とい)に挑み続ける「地域の財(たから)」～	960名	200万円
2021	和歌山県立箕島高等学校	和歌山県有田市	地球市民プロジェクト ～みらいを変えるきっかけを～	143名	100万円
2021	鳥取県立鳥取西高等学校	鳥取県鳥取市	鳥取県、ラオスにおける水問題をテーマとする文理融合型探究学習	560名	200万円
2021	島根県立松江農林高等学校	島根県松江市	ご縁コンソーシアムから生まれる地域の人材育成 ～高校生と地域の協働による地域課題解決型学習の深化を目指して～	455名	200万円
2021	岡山学芸館高等学校	岡山県岡山市	これからの社会を創造するグローバルリーダーシップの育成 ～社会課題の解決に正面から立ち向かうユース層の育成を目指して～	928名	200万円
2020	国立高等専門学校機構 呉工業高等専門学校	広島県呉市	インキュベーション教育プログラム	500名	200万円
2021	広島市立舟入高等学校	広島県広島市	広島、日本、世界へ届け! 舟入の「問い」! ～「問い」から始まり、「問い」で終わる舟入の「問い」立て探究～	320名	100万円
2021	山口県立防府高等学校 佐波分校	山口県山口市	徳地コンソーシアム	48名	100万円
2020	徳島県立池田高等学校	徳島県三好市	対話による阿波池田シビックプライド探究プロジェクト	330名	200万円
2020	国立高等専門学校機構 阿南工業高等専門学校	徳島県阿南市	電気技術イノベーション実習	150名	100万円
2021	徳島県立城ノ内高等学校	徳島県徳島市	エシカルの窓から世界へ ～新しい価値を創造する～	664名	200万円
2021	香川県立三木高等学校	香川県木田郡	Miki S.C.C. Project (Sustainable Cooperation with Community Project) SDGsを軸に地域と連携した体験活動を取り入れ、 自らの学習目的を明確にした、主体的な学びに向かう 3年間の生徒育成を考えた学校改革プロジェクト	450名	200万円
2021	香川県立高松西高等学校	香川県高松市	西高発 COOL JAPAN!	559名	200万円

※都道府県順

年度	組織名	所在地	教育プログラム名	対象者数	助成額
2021	愛媛県立今治北高等学校 大三島分校	愛媛県今治市	大三島の地域文化遺産「大見神楽」の復活・伝承プロジェクト	97名	100万円
2021	愛媛県立南宇和高等学校	愛媛県南宇和郡	愛南未来づくりプロジェクト ～地域による、地域のための、地域の学校を目指して～	319名	180.8万円
2021	高知県立山田高等学校	高知県香美市	よってたかって山高「探究」プログラム	330名	200万円
2020	福岡県立小倉高等学校	福岡県北九州市	倉高 ONLY ONE 計画	560名	200万円
2020	福岡県立修猷館高等学校	福岡県福岡市	Sure You Can プロジェクト	880名	200万円
2021	福岡県立春日高等学校	福岡県春日市	春日からHasshin(発信×発進)プロジェクト ～グローバル&グローバル人財の育成～	796名	200万円
2021	佐賀県立佐賀農業高等学校	佐賀県杵島郡	農業高校の専門性を活かしたグローバル・リーダーの育成 ～持続可能な地域農業の実現に向けて～	236名	200万円
2020	長崎県立諫早高等学校	長崎県諫早市	「自立し未来を創造する人材育成」諫早から世界へ、世界から諫早へ	830名	200万円
2020	長崎県立長崎東高等学校	長崎県長崎市	「ともによき世を創る」 ～世界の平和と共生を目指し、協働・共創でイノベーションを～	840名	200万円
2020	国立高等専門学校機構 佐世保工業高等専門学校	長崎県佐世保市	国際的域性を活かした英語の壁を乗り越える 早期グローバルマインド育成プログラム	320名	200万円
2020	長崎県立佐世保西高等学校	長崎県佐世保市	佐世保西校ふるさと創生大作戦 ～佐世保と世界と未来を結ぶイノベティブ人材育成～	710名	120万円
2021	長崎県立上五島高等学校	長崎県南松浦郡	進取(総合的な探究の時間)「若者が島の未来をつくる ～島の魅力を島外へ、島の未来を私たちで～」	180名	188万円
2020	国立高等専門学校機構 熊本高等専門学校 熊本キャンパス	熊本県合志市	高専生の探究学習サイクルを起動する 社会的課題解決型教育プログラム	120名	96万円
2020	国立高等専門学校機構 熊本高等専門学校 八代キャンパス	熊本県八代市	新たな社会を創造する人材育成のためのリベラルアーツ教育プログラム ～生き方、学び方の設計と実践を促進する教育の構築と実践～	260名	170万円
2021	熊本県立水俣高等学校	熊本県水俣市	水俣と世界を「いのち」でつなぐ みなまたMOYAIST(モヤイスト)の養成 ～「発信」から「つなぐ」へ～	375名	200万円
2021	熊本県立熊本高等学校	熊本県熊本市	ワクワククロスリアリティフォーラム(WXRフォーラム)	1,200名	200万円
2021	大分県立大分上野丘高等学校	大分県大分市	SGS未来創生「大空プロジェクト」	640名	200万円
2021	宮崎県立宮崎東高等学校 定時制夜間部	宮崎県宮崎市	生徒が生きがいを感じるための探究活動	70名	100万円
2021	宮崎県立都城西高等学校	宮崎県都城市	都城西高校を拠点とした地域総ぐるみの次世代リーダーの育成	400名	200万円
2021	鹿児島県立沖永良部高等学校	鹿児島県大島郡	「沖高みらい探究プロジェクト」～持続可能な島づくりのために～	92名	100万円

◇ カテゴリー2

※団体名五十音順

年度	組織名	所在地	教育プログラム名	対象者数	助成額
2020	一般社団法人 i.club	東京都文京区	innovation GO ～全国を舞台にイノベーションに挑む、 高校生のためのオンライン教育プログラム～	100名	850万円
2020	NPO法人 アスクネット	愛知県名古屋	SPIRAL (Social Platform with Innovation, Relationship, Activation and Learning)	250名	802万円
2020	一般社団法人 ELAB	東京都港区	未来を描くプログラム	80名	650万円
2020	NPO法人 エティック	東京都渋谷区	ワンダリングチャレンジ ～3人1組で挑み、競う、ゲーミフィケーション型探究学習～	250名	550万円
2020	認定NPO法人 カタリバ	東京都杉並区	全国高校生マイプロジェクトAWARD 全国大会地域・学校を超え、 「悔しさをバネに学びのロールモデルに成長していく」特別プログラム	180名	660万円
2021	学校法人 金沢工業大学	石川県野々市市	学都圏「いしかわ」創成 ～ラーニングストラテジーを学ぶPBLコンペティション～	56名	638.9万円
2021	一般社団法人 Kizuna Across Cultures	東京都豊島区	オンライン国際協働学習プログラム Global Classmates Plus(グローバル・クラスメート・プラス)	300名	631万円
2021	株式会社 教育と探求社	東京都千代田区	探究活動を実践に移し、 社会実装する 部活動プロジェクト 社会実装部	100名	681.8万円
2020	認定NPO法人 金融知力普及協会	東京都中央区	リアビズ Real Business ～高校生模擬起業グランプリ～	100名	800万円
2020	認定NPO法人 グローバル人材開発センター	京都府京都市	Glocal Shift Programme ～君が世界を変える、君の世界を変える～	40名	789万円
2021	公益財団法人 国際高等研究所	京都府木津川市	IIAS塾ジュニアセミナー「独立自尊の志」養成プログラム	80名	628万円
2020	国立大学法人 滋賀大学	滋賀県彦根市	英国で開発された子ども向けマインドフルネス・プログラム “.b:ドットビー”の日本への導入	40名	300万円
2021	認定特定非営利活動法人 育て上げネット	東京都立川市	若者の孤立無業化予防のためのキャリア教育プログラム Life Connection ライフコネクション	2,000名	849万円
2021	一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム	島根県松江市	未来の地域・社会の牽引するグローバルリーダー探究実践プログラム	120名	669.4万円
2020	認定NPO法人 日本ファンダレイジング協会	東京都港区	日本初の社会貢献教育ポータルサイトでの 全国の高校生の地域・社会課題解決活動促進	2,500名	600万円
2021	一般社団法人 未来キッズコンテンツ総合研究所	東京都港区	競技会形式で最新のAI/ICT関連技術を競う 「シンギュラリティバトルクエスト」	1,000名	800万円
2020	読売新聞東京本社 教育ネットワーク事務局	東京都千代田区	高校生向け医療体験プログラム	330名	621万円
2021	株式会社rokuyou	沖縄県中頭郡	地域企業と肝心(ちむぐる)育む 公立高校むけPBLプログラム	1,440名	527万円
2021	国立大学法人 和歌山大学 (宇宙甲子園事務局)	和歌山県和歌山市	「子どもの遊び」で終わらない、宇宙へのチャレンジ実践プログラム	640名	755万円

◇ カテゴリー3

※団体名五十音順

年度	組織名	所在地	教育プログラム名	対象者数	助成額
2020	一般社団法人 inochi未来プロジェクト	大阪府大阪市	inochi Gakusei Innovator's Program 2020 (i - GIP)	約160名	1,000万円
2020	国立大学法人 大阪大学	大阪府吹田市	大阪大学の教育研究力を活かしたSEEDSプログラム ～未来を導く傑出した人材発掘と早期育成～	約150名	1813.4万円
2020	加速キッチン合同会社 (旧 探Q (東北大学))	宮城県仙台市	中高大・研究所による宇宙線観測活動コンソーシアム	約70名	540万円
2020	国立大学法人 筑波大学	茨城県つくば市	未来を切り拓くフロントランナー育成プログラム・筑波大学 GFEST (Global Front-runner in Engineering, Science & Technology)	約40名	1726万円
2021	国立大学法人 東北大学	宮城県仙台市	東北から世界へ 未来型「科学者の卵養成講座」 ～集え、異質な高校生よ。創れ、未来の理想社会を～	100名	2,000万円
2020	東海国立大学機構 名古屋大学	愛知県名古屋市	名大みらい育成プロジェクト: 国際環境で地球規模の問題に挑戦する	約100名	2,000万円
2021	認定NPO法人 very50	東京都豊島区	Entrepreneurship in the Global Ground (EGG)	100名	1,010万円
2021	国立大学法人 山形大学	山形県山形市	山形大学発IT人材育成 ～シリコンバレー版スーパーエンジニアプログラミングスクール	120名	1,226.1万円

◇ カテゴリー4

※団体名五十音順

年度	組織名	所在地	教育プログラム名	対象者数	助成額
2021	愛知県公立大学法人 愛知県立大学	愛知県長久手市	愛県大教養教育新カリキュラム:「県大世界あいち学」の始動	761名	736.1万円
2021	国立大学法人 大阪大学	大阪府吹田市	「対話」で開く「学問への扉」 ～少人数セミナー型初年次導入科目の挑戦～	3,400名	800万円
2021	関西学院大学 ハンズオン・ラーニングセンター	兵庫県西宮市	多拠点型の高等教育OSプログラム ～ハンズオン・ラーニング・プログラムの構築～	170名	300万円
2021	神田外語大学 グローバル・リベラルアーツ学部	千葉県千葉市	グローバル・チャレンジ・ターム	60名	200万円
2021	上智大学 基盤教育センター	東京都千代田区	「基盤教育センター」構想 ～全学共通科目の見直しによる新しい教養教育の実践	3,000名	800万円
2021	清泉女子大学 文学部 地球市民学科	東京都品川区	「グローバル・シティズンのための101のコンセプト」 ～VUCA時代におけるアクティブ地球市民育成プログラム～	60名	60万円
2021	国立大学法人 筑波大学 社会・国際学群	茨城県つくば市	TSUKUBA 社会国際学初年次チュートリアルプログラム	120名	120万円
2021	国立大学法人 東北大学	宮城県仙台市	挑戦カレッジと学問論でつむぐ 分野横断型リベラルアーツプログラム	2,450名	725.2万円
2021	国立大学法人 新潟大学	新潟県新潟市	新潟大学ダブルホーム ～地域と共に創る「新たなふるさと」～	250名	305万円
2021	立命館大学 教養教育センター	京都府京都市	学びのコミュニティ・オーガナイズングによる未来共創プログラム ～自由に生きるための知性を磨く～	500名	500万円

◇ カテゴリー5

年度	組織名	所在地	教育プログラム名	対象者数	助成額
2021	国立大学法人 東京学芸大学 次世代教育研究推進機構	東京都小金井市	高等学校における授業及び教師教育モデルの開発・普及プロジェクト	10,000名	4,000万円
2021	株式会社a.school (エイスクール)	東京都文京区	探究ファシリテーター講座	50名	850万円
2021	一般社団法人ティーチャーズ・ イニシアティブ	東京都千代田区	「主体的・協働的な学び」を実践する教員養成のための 指導主事(教員)研修	24名	973.4万円



貸借対照表

2021年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	361,363,278	132,367,796	228,995,482
未収金	30,814,147	0	30,814,147
前払費用	1,504,985	1,680,741	▲ 175,756
流動資産合計	393,682,410	134,048,537	259,633,873
2. 固定資産			
その他固定資産			
建物付属設備	3,493,042	3,619,835	▲ 126,793
什器備品	1,272,356	1,533,249	▲ 260,893
ソフトウェア	8,125,104	8,065,700	59,404
その他固定資産合計	12,890,502	13,218,784	▲ 328,282
固定資産合計	12,890,502	13,218,784	▲ 328,282
資産合計	406,572,912	147,267,321	259,305,591
II 負債の部			
流動負債			
未払金	1,816,360	43,834,390	▲ 42,018,030
未払費用	3,954,982	713,498	3,241,484
流動負債合計	5,771,342	44,547,888	▲ 38,776,546
負債合計	5,771,342	44,547,888	▲ 38,776,546
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産	400,801,570	102,719,433	298,082,137
正味財産合計	400,801,570	102,719,433	298,082,137
負債及び正味財産合計	406,572,912	147,267,321	259,305,591

正味財産増減計算書 ※2020年4月1日から2021年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取寄付金	600,000,000	200,000,000	400,000,000
雑収益	69,488	257	69,231
経常収益計	600,069,488	200,000,257	400,069,231
(2) 経常費用			
事業費	274,569,574	82,492,356	192,077,218
役員報酬	8,400,000	4,200,000	4,200,000
給料手当	22,597,000	9,032,677	13,564,323
会議費	391,564	122,621	268,943
接待交際費	48,553	0	48,553
旅費交通費	2,486,079	1,374,375	1,111,704
通信運搬費	259,799	0	259,799
〇A関係費	1,684,100	58,300	1,625,800

科 目	当年度	前年度	増 減
減価償却費	2,027,120	656,156	1,370,964
消耗什器備品費	5,082	247,324	▲ 242,242
消耗品費	94,952	698,718	▲ 603,766
修繕費	426,195	981,766	▲ 555,571
印刷製本費	1,033,829	314,325	719,504
光熱水料費	106,539	43,255	63,284
賃借料	12,723,048	6,445,940	6,277,108
広告宣伝費	16,695,074	10,236,820	6,458,254
諸謝金	9,395,510	485,360	8,910,150
支払助成金	183,368,453	0	183,368,453
支払報酬	0	138,600	▲ 138,600
開発費	0	8,250,000	▲ 8,250,000
企画調査費	0	38,613,740	▲ 38,613,740
委託費	12,713,927	573,349	12,140,578
雑費	112,750	19,030	93,720
管理費	27,417,777	14,788,468	12,629,309
役員報酬	4,020,000	2,150,000	1,870,000
給料手当	10,180,000	4,242,290	5,937,710
福利厚生費	206,502	141,100	65,402
会議費	512,535	260,138	252,397
接待交際費	2,166	39,736	▲ 37,570
旅費交通費	111,414	69,458	41,956
通信運搬費	929,641	455,109	474,532
〇A関係費	913,946	660,110	253,836
減価償却費	141,462	71,149	70,313
消耗什器備品費	103,928	610,766	▲ 506,838
消耗品費	273,686	388,068	▲ 114,382
修繕費	248,655	420,757	▲ 172,102
印刷製本費	513,645	309,589	204,056
光熱水料費	45,661	18,538	27,123
賃借料	6,151,872	3,068,344	3,083,528
租税公課	137,300	155,230	▲ 17,930
支払報酬	2,366,464	1,384,350	982,114
委託費	0	47,721	▲ 47,721
雑費	558,900	296,015	262,885
経常費用計	301,987,351	97,280,824	204,706,527
評価損益等調整前当期経常増減額	298,082,137	102,719,433	195,362,704
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	298,082,137	102,719,433	195,362,704
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	298,082,137	102,719,433	195,362,704
一般正味財産期首残高	102,719,433	0	102,719,433
一般正味財産期末残高	400,801,570	102,719,433	298,082,137
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	400,801,570	102,719,433	298,082,137

注)前年度は2019年10月1日から2020年3月31日

役員・評議員名簿

評議員

安西 祐一郎
 (元慶應義塾長、独立行政法人日本学術振興会顧問)

島村 琢哉
 (AGC株式会社 取締役会長)

杉山 博孝
 (三菱地所株式会社 取締役会長)

田中 愛治
 (早稲田大学 総長)

田中 優子
 (前法政大学 総長)

永野 毅
 (東京海上ホールディングス株式会社 取締役会長)

松本 紘
 (国立研究開発法人理化学研究所 理事長)

柳井 秀朗
 (三菱金曜会事務局長)

理事長

平野 信行
 (株式会社三菱UFJ銀行 特別顧問)

常務理事

藤田 潔

理事

赤堀 侃司
 (東京工業大学 名誉教授)

木村 千章
 (三菱重工業株式会社 執行役員)

長澤 光太郎
 (株式会社三菱総合研究所 専務執行役員)

坂東 真理子
 (昭和女子大学 理事長・総長)

藤原 謙
 (株式会社三菱ケミカルホールディングス 取締役執行役常務)

増田 邦昭
 (三菱電機株式会社 取締役常務執行役)

渡邊 肇
 (公益財団法人三菱財団 常務理事)

監事

三宅 茂久
 (税理士法人 山田&パートナーズ統括代表社員)

※2021年7月現在、敬称略・五十音順

一般財団法人
三菱みらい育成財団

Mitsubishi Memorial Foundation for Educational Excellence

所在地	千代田区丸の内二丁目2番3号 丸の内仲通りビル9階
設立日	2019年10月1日
事業内容	教育プログラムや教育事業者への助成、事業活動のサポート
事業期間	2019年10月1日～2031年3月31日まで(予定)
総事業費	約100億円
お問い合わせ先	info@mmfe.or.jp
制作協力	株式会社エム・シー・コミュニケーションズ
デザイン	弾デザイン事務所



一般財団法人
三菱みらい育成財団

www.mmfe.or.jp

〒100-0005 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号 TEL:03-6206-3435 / FAX:03-6206-3436

